

三育の学びは
豊かな人生を歩む第一歩



In everything, do to others
what you would want them to do to you.

(Matthew 7:12)

Tokyo San-Iku Adventist Elementary School Since 1898

東京三育小学校





1949
戦後再開もない
天沼教会小学校



1964
5年生 算数授業



1964
2年生の授業



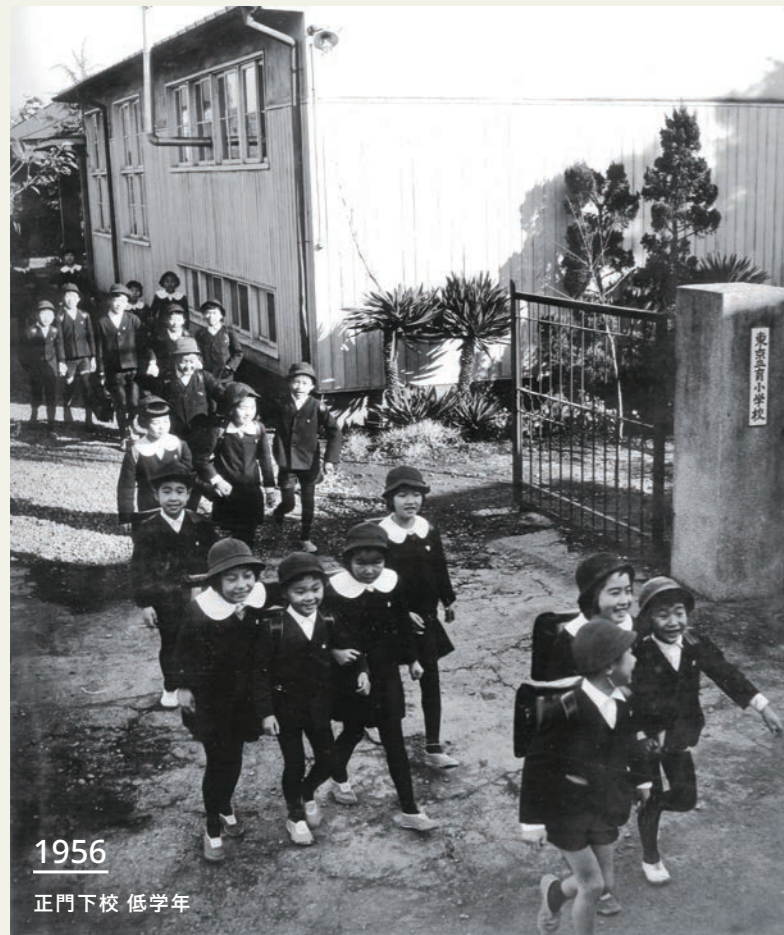
1965
休み時間に校庭で大縄跳び



1965
全校児童と教職員



1965
児童礼拝の賛美



1956
正門下校 低学年



1956
現在地に移転後の授業



1958
10月 運動会

東京三育小学校の沿革

日本における最も古い キリスト教学校の一つ

1898年（明治31年）、アメリカに本部をもつセブンスデー・アドベンチスト教会（プロテスタント）の宣教師ウィリアム・C・グレンジャー博士により、現在の港区芝に和英聖書学校が開校されました。その後、1919年（大正8年）にキリスト教精神に基づく一貫教育の必要性に着目し、杉並村天沼（現在の杉並区天沼）に天沼学院小学部・中学部・高等部が開校されました。小学部は1949年（昭和24年）に天沼教会小学校として再開、1956年（昭和31年）に現在地に移転、東京三育小学校と改称され、いまに至ります。

セブンスデー・アドベンチスト教会は教育だけでなく、食事や運動、心の在り方など、人間の生活を総合的にとらえ、心身ともに健やかで充実したライフスタイルを提唱しています。産科で有名な東京衛生アドベンチスト病院（杉並区天沼）や、植物由来のたんぱく質を利用した健康食品を製造する三育フーズ（千葉県袖ケ浦市）、高齢者福祉施設シャローム東久留米（東久留米市）などは、セブンスデー・アドベンチスト教会を母体としており、本校と同じ理念のもと、それぞれの分野で社会に貢献しています。



1971
旧SDA東京中央教会（原宿）で
賛美を捧げる児童



1973
12月 クリスマスプログラムの聖歌隊

いつくしみ豊かで、あわれみ深い子ども

[校長] 平田 理 Hirata, Makoto

現代社会において対立や分断、差別や格差が広がる中、本校は子どもたちがどのような場所であっても慈しみ溢れる環境で育つことを心から願っています。私たちは、自己の優位性を求めて他者を蔑ろにする価値観から距離を置き、一人ひとりが神様から授かった才能や機会を惜しみなく分かち合える人へと成長することを大切にしています。

子どもたちは、自らが愛され、豊かな慈しみと深い憐れみを受ける経験を通じて、その恵みを心の宝として蓄えます。個人の力には限りがありますが、互いに協働することで慈しみの輪は広がり、より多くの人々と分かち合える力へと変わ

るのです。

聖書が説く「慈しみ」や「憐れみ」は、単なる同情や優しさではありません。それは、相手の弱さや失敗に寄り添い、それらを引き受けて回復へと導く「覚悟を伴う愛」です。イエス・キリストが勧める「慈しみ」と「憐れみ」とは、先ず、自らの足りなさを自覚する「心の貧しさ」を意味します。それを知ることによって、競争や比較で他者を切り捨てるのではなく、助けを必要とする誰かの痛みに気づく「心の柔らかさ」が育まれるからです。正論やルール、評価をかざして相手を追い詰めるのではなく、弱さに苦しむ人を排除せずに手を差し伸べ、関係を回復さ

せる努力をすること。それこそが、イエス・キリストが示した「小さきもの」への愛ある眼差しです。本校が考える「いつくしみ豊かであわれみ深い子ども」とは、単なる強さや大きさを求める子どもではなく、他者の弱さに身を寄せる勇氣と覚悟を持つ子どもを指します。

学校。そこは子どもたちが失敗を恐れずに努力と挑戦を繰り返すことができる場です。誹謗中傷、優劣や序列の比較が蔓延する社会にあっても、本校は「憐れみに富み、慈しみ豊かな人」を世に送り出す学校であり続けるよう、力を尽くしてまいります。



In everything, do to others what you would want them to do to you.

(Matthew 7:12)

Contents

- Our School Archive
 - p.02 **[東京三育小学校の沿革]**
日本における最も古いキリスト教学校の一つ
- Message from Principal
 - p.04 **[校長挨拶]**
- Learning for Life
 - [三育の教育]**
「徳」「知」「体」を柱に豊かな人生の土台を育みます
 - p.06 **「徳育」** 神と隣人への愛を育みます
 - p.08 **「知育」** 真理に対する知識と理解を深めます
 - p.10 **「体育」** 神と隣人に仕えるために健康を保ちます
- English Learning
 - p.12 **[英語教育とグローバルネットワーク]**
全学年毎日英語授業
世界の系列校との交流も行います
- Learning for Life
 - p.16 **[エディブル・スクールヤード]**
土に触れて一生モノの知恵を身につける本物の学び
- School Life
 - p.18 **[三育の一日の生活]**
[三育の年間行事]
- Guidance for Secondary Education
 - p.22 **[卒業後の進路]**
系列の三育中学校をはじめ、一人ひとりにふさわしい多様な進学を実現しています
- Global Network
 - p.23 **[三育の一貫教育]**
一人ひとりの長所をさらに伸ばし、深め、豊かな人生の歩み方を学ぶ三育の一貫教育
- Our Values
 - p.24 **[卒業生インタビュー]**
自分らしい豊かな人生の歩み方は三育で学んだ三育の魅力について卒業生が語ります
- Voices from Family
 - p.25 **[現役保護者インタビュー]**
三育を選んでよかった! の声をお届けします

校訓

「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。」

マタイによる福音書7章12節

Mission Statement

“As the ones loved by God we pledge to love one another and meet each other’s needs. And wherever we may go in this world, we will produce peace, learn and work together for the sake of God’s glory.”

「わたしたちは、神さまに愛されている人として、互いに愛し合い、互いの必要に応え、世界のどこにいても平和をつくり出し、神さまの栄光を現すために共に学び、働きます。」

校歌 作詞 千原 美沙子 作曲 三村 朗

1
イエスのまかれた よい麦は
街のまなかに 育っても
主のいましめを 守るため
毎日知恵を もとめます

くり返し
*恵みあれ 豊かに
東京三育小学校

2
イエスにだかれる 小羊は
星もみえない 夜空でも
主のみすがたに 似るように
み顔のひかり あおぎます

3
イエスにつながる わかえだは
強くおおきく 成長し
主に会うために 備えよと
すべての人に 伝えます

徳育

わたしたちが
目指していること

イエス・キリストの愛に基づいた調和ある発育と発達のための、神様から与えられた人間性（霊性spiritus、知性mens、身体corpus）の全的な回復と、より良い社会を目指す奉仕にあります。すなわち、聖書の教えを価値の根源として、思慮深く真理を考え、品性に基づき善を為し、人と社会に奉仕する人物を世に送り出すことです。

Learners will grow in love
for God and others.

神と隣人への愛を育みます

社会や他者のために、 献身的に働く人物を育てる Do for Others in Christ

「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。」(マタイによる福音書7章12節)この聖書の一節を校訓とする三育小学校では、聖書にある「わたしの目にあなたは価高く、尊く、わたしはあなたを愛している。」と記されている神様の愛に育まれた自尊の感情と安心感が子どもの可能性を拓き、磨かれ輝くのです。その輝く個性は他者を受け入れ、「誰かのための自分」や社会に役立つ働きをいとわず喜んで行う原動力となります。他者は「自分一人が成功するためのライバル」ではな



く、互いに愛し合い、互いの必要に応え、多様な人々と平和な世界を作るために分かち合う隣人であるという心を育むのです。三育の6年間は豊かな人生を築く土台作りです。



祈りと賛美を通して 心を整える

三育小学校では「自分は愛されている」という実感を持った肯定感を受け取る時間である「祈りと賛美」から始まります。朝は「あなたのままで素晴らしい」という神様の愛と、仲間と先生との信頼関係を確認することから始まるのです。毎朝のクラスの礼拝や月曜日の児童礼拝で子どもたちは静かに目を閉じ、自分の存在には意味があり、自分の居場所があることを確認し、喜び感謝します。讃美歌を歌い、互いの賛美の歌声が響き合う時、一体感を生み出します。わたしたちの学校は「まず心を整える」ことから一日を始めます。

小さな学校の親密な 人間関係が心を育てる

1学年1クラスの少人数の三育小学校は、仲間や先生との親密な関係性の中での学びや生活によって、家族のような深い人間関係を築きます。教職員は全校児童の名前と顔を知っており、一人ひとりの個性を共有し寄り添います。全校児童は名前前で呼び合い、個性を認め合います。この親密な人間関係があるからこそ、問題に直面することがあっても互いの誤りを認め合い、赦し合い、寛容さを示し、平和をつくり出す体験を重ねていくことができます。パディ制度や全学年縦割りの活動を通して、上級生は下級生を弟妹のように世話し、自分とは異なる個性を持



つ仲間を「神様が与えてくださった最高の仲間」として、互いを尊重する学校文化を作るのです。思いやりや善い行いを自然に受け継ぐ関係が育まれます。



祈禱週・卒業祈禱週

1学期と2学期の祈禱週はセブンスデー・アドベンチスト教会の牧師を講師に迎え、朝の時間に聖書を通して神様について知り、一人ひとりが神様と自分自身と向き合うことで、他者を思いやり平和を実現する心を育みます。

3学期は卒業祈禱週として6年生全員が全校児童・教職員や保護者を前に、小学校6年間の歩みを振り返ります。神様の愛を感じた体験、聖書から学んだこと、仲間との親密な関係性から生まれた感謝の思い、三育小学校でなければ得られなかった体験や心の交流、そして自分の中心に据えるもの、本当に大切なものは何かに気づいたことなどを、三育の学びの集大成として自分の言葉で語ります。

TOPIC

土曜日 教会出席について



土曜日には授業は行われませんが、学校に隣接するセブンスデー・アドベンチスト三育関町キリスト教会またはご自宅近隣のセブンスデー・アドベンチスト教会に出席していただけます。クリスチャンとして社会生活を送る大人と一緒に礼拝することは、聖書を土台とする生き方を理解するために非常に有意義だからです。また児童が学ぶ聖書を家族で共有していただきたいという考えから、極力保護者の方にも教会への出席をお願いしています。

*セブンスデー・アドベンチスト教会は、聖書に基づいて安息日である土曜日に礼拝を行っています。

知育

三育の学びのチカラ

子どもたちの学びの環境で大切なことは、安心して自分らしく過ごせる環境と、互いに学び合い助け合える関係があることです。小さな学校だからこそ、教職員は一人ひとりの個性を理解し、学ぶ力を伸ばすことを大切にしています。教師は「25人のクラス」ではなく、「25通りの指導と助言」を行います。安心感は失敗を恐れずチャレンジし続けることを可能とし、学びを深めます。

Learners will grow
in their knowledge
and understanding
for the pursuit of Truth.

真理に対する知識と理解を深めます

学びの目的を知る

三育小学校の学びの目的は一般的な学習目標とは異なります。自分一人が成功するためではなく、知識・教養・情報を「誰かを助けるために必要な道具」として用いる目的のある学びです。点数が上がった喜びではなく、「自分ができることが増え、人の役に立つ準備が整った」という達成感へと変えられます。神様から与えられた自分だけの能力を発見し、生かし、多様な人々と考えや視点を分かち合い、相互理解を深め協働し、他者や社会の必要に応える人になるための学びです。また小さい学校では活動を通して一人ひとりが役割を担う機会が多いため、責任感や協調性、問題解決力といった力を自然に身につけていきます。

本物に触れる学び

体験学習は子どもたちの心を耕し、学ぶ意欲を高めます。校外施設での専門家による学びや、講師を招いての特別授業、本物に触れる体験は、表現力や考える力が豊かに育ちます。体験を通して「もっと知りたい」「学ぶことが楽しい」と感じる機会が多く持てるのは小さな学校だからこそできる強みです。知識や情報を正しい手段と方法で求め、何が善であり、真理なのかを探し、本質を見究める学びに導きます。教師は答えを知っていて教えるのではなく、子どもが自ら考え、学ぶ力を伸ばすために、子どもに寄り添い、知りたかったことに近づく方法を見つける手助けをします。

半歩先の学校が目指す、「探し求め、探し究める」チカラ

すべての教科に共通する大切なことは「基礎力」です。全学年、学期毎の計算力・漢字力テストは合格点に達するまで繰り返し挑戦します。また演習教材を利用し、苦手や不足している点を補う学びも繰り返されます。補習や宿題の見直しはどの学年でも根気強く行われます。理解していないことや疑問点を掘り下げ、領域を超えて調べ、異なったこととの関連性を発見し、真理を探し求め、究めることが「三育の学びのチカラ」です。グループ学習などの協働的学びも多く、考えをまとめて相手に伝え、意見を聞き、互いの視点を尊重し、新たな問題を見出します。誰かの学びの便乗ではなく、解決策を探し理解を深め合う学びです。



『本物に触れる』3つの実践

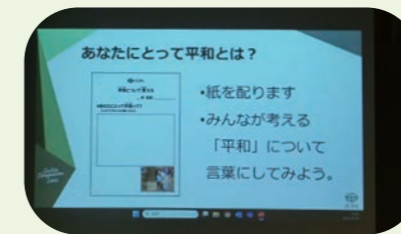
平和学習 6年生沖繩平和学習

聖書には「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」(マタイによる福音書5章9節)とあります。子どもたちはPeace Maker(平和をつくりだす者)としてなぜ戦争が起きたのか、どうすれば戦争を止められたのかを沖縄戦の戦跡や米軍基地周辺を訪れ、平和について考えます。周りの人たちへの感謝、やさしい思いやり、赦し合うことが平和を生み出し、それが大きな平和へと広がっていくことを、日頃の生活を振り返りながら、自分なりの意見や考えを深める学びです。



系列機関 ADRA Japan による 「平和について考える」特別授業

ADRA Japan (アドラジャパン) は、日本の災害地域支援のみならず、世界120か国に支部を持ち、途上国や災害被害地の開発支援や緊急支援活動を行うNGOです。実際に支援活動をしている講師の方から世界の自然災害や紛争・戦争によっていのちの危機にある人々や、学校に行けない同じ世代の子どもたちの現状を聞きます。「苦しみを生み出すのは人、しかし人を助けるのも人です。」「未来をつくり出し、戦争しない選択ができるのも人です。」講師の話を通して平和の意義を考えます。



いのちの授業

系列大学・病院の協力のもと、専門的な学びと体験を行います。胎児の成長過程や新生児の重さの体感や服の着替え、聴診器を使って心臓音を聴き、心臓機能についての学びは自分や他者のいのちの大切さを実感します。また医療機器に触れる体験を通して「いのちを守る現場」への理解も深めます。神様から与えられたいのちと、家族や周囲の人々に愛され守られ成長していることに感謝する学びです。また成長段階に応じたジェンダー教育や、プライベートゾーンの学びを通じて、個々に与えられている人権や尊厳を大切にすることを学びます。



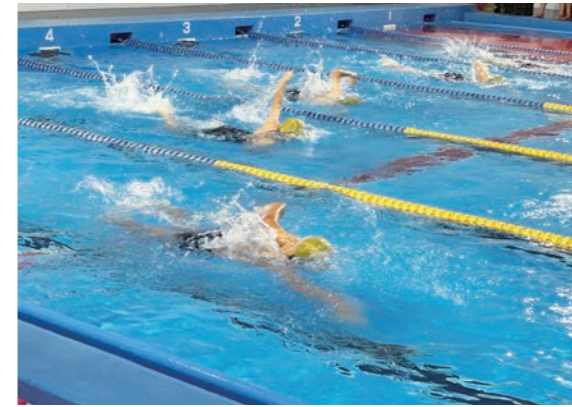
体育

人生を楽しむ
土台としての健康

体育の目的は、単に速く走る等の運動能力を上げることではありません。小学生の時だけでなく、成人してからも、仕事に余暇に全力で取り組める健やかな体を維持するための土台作りと位置付けています。年間を通して行われる水泳教室をはじめ、始業前の縄跳びやラジオ体操、マラソン等で基礎体力を培います。休み時には大勢の児童が一輪車や竹馬、木登り、サッカー等、存分に体を動かします。屋外で遊ぶことで自然に体が鍛えられ、汗をかいて遊ぶことは健やかな心を育むことにもつながります。また本校では低脂肪・高食物繊維の卵乳菜食を奨励しており、心身共に健やかな身体を土台を築きます。

Learners will grow
in keeping themselves healthy
to serve God and others.

神と隣人に仕えるために健康を保ちます



水泳教室で 総合的な体力作り

年間を通して、全学年を対象に近隣のスイミングクラブを利用して水泳の指導を受けています。理想的な全身運動でありながら関節等への負担が少ない水泳は、体幹づくりや心肺機能の強化などに役立ち、総合的に体力を養います。着衣水泳にも取り組み、着衣状態で起こることが多い水難事故に備えています。年に1回、水泳大会を実施しています。

体力作りだけでなく協働することを学ぶ



春の運動会、春秋の遠足の他、秋には縄跳び大会（時間跳び・二重跳び）、駅伝大会、サッカーフェスティバル、スポーツテスト等、日頃の体力作りの成果を発揮する機会がたくさんあります。また運動会恒例の「8の字跳び」「大むかで競走」「リレ

ー」への挑戦は、個々の体力や走力を鍛錬するだけでなく、仲間と協力することや、一人ひとりの役割を果たすことの大切さを体験的に学ぶ機会でもあります。また競技の勝ち負けよりも、自分の努力や相手をたたえることを大切にしています。



やり続ける力

始業前の時間に、春から秋にかけては縄跳び、冬にはマラソンを実施しています。得手不得手のある子どもたちですが、あきらめずにチャレンジし、努力し続けることを伝えます。子どもたちは互いの能力を認め合い、だれであっても小さな上達を見逃さず、励まし寄り添い、応援します。この積み重ねが「やり続ける力」を生み出し、持久力を高めます。これは運動面にとどまらず、学習面にも生かされる力です。



本校がお勧めしている 卵乳菜食について

心身ともに健やかな身体を土台作りを大切にすると考えから、卵乳菜食をお勧めしています（ベジタリアンスタイル）。一般的な食事に比べると動物性脂肪が少なく、植物繊維やビタミン・ミネラル・抗酸化物質を多く摂取でき、健康増進や疾病予防にも高い効果があります。日々のお弁当についてはご家庭の好みや事情に応じて子どもが喜ぶお弁当をご用意ください。週1回のベジ弁当と週2回のサンドイッチ弁当を事前に注文することもできます。また年1回保護者向けに、系列機関「三育フーズ」の協力を得て「菜食料理講習会」を実施し、お弁当作りや日々の食事に役立つ菜食レシピや商品をご紹介します。

TOPIC
三育グループは
健康な体作りに積極的に
取り組んでいます



本校を含む三育グループは、設立母体であるセブンスデー・アドベンチスト教会と共に、生涯にわたって健康を保ち、自己実現と社会活動に貢献するために積極的に取り組んでいます。系列の健康食品会社「三育フーズ」では植物たんぱく食品、豆乳、ゴマ加工品など現在約120種類を製造しており、心と体の健康に寄与しています。



英語教育とグローバルネットワーク

全学年毎日英語授業!

小規模学校は外国語習得やプロジェクト学習で個別指導がしやすい

毎日行っている三育の英語学習量は、6年間で公立小学校の授業数の約4倍になります。オリジナルの教材も加えた学びは多様で、教科を超えた学び(CLIL)を適宜に取り込んでいます。さらに、毎朝の学級ごとの礼拝で暗唱している英語の聖句は(聖書の言葉)は6年間で60箇所を超え、さらに英語で覚える讃美歌、お祈りは心に刻まれ、大人になっても口ずさめるほどです。また授業時間外にも小グループでの個別発音指導が繰り返され、苦手な音を改善し、得意な音にはさらに磨きをかけています。3学期に行われる学習発表会では、英語でのプレゼンテーションや賛美などを披露する機会もあります。



In everything, do to others what you would want them to do to you.

だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。



三育の英語教育が目指すもの

校訓やミッションステートメントを実現させるツールとして英語を学んでいます。また言葉の習得が「勉強」になる前に英語に親しむことによって、「英語は楽しくて大好き!」という前向きな姿勢を育てます。この動機づけは中学校以降の英語学習においても大きな推進力となります。

また多様な音に対してまだ耳が開いている時期に、母語とは異なる音韻体系を学び、コミュニケーションの基礎となる語彙や基本文型を多数蓄えていきます。さらに、異文化学習を通して自分と異なる他者を理解し受容する姿勢を育てます。

英語教育の特色

圧倒的な授業数

他に類を見ない授業数(1回20分×週5日+個人・小グループレッスン)を確保し、ネイティブ教師(週2回)とバイリンガル教師(週3回)による授業を行っています。特に1年生では個人・小グループレッスンによる補習クラスを週3回行い、クラス単位では見過ごされやすい理解度の確認や学習定着などを図っています。

独自のカリキュラム

1年生から6年生まで児童の成長発達段階に対応した独自のカリキュラムで授業を行っています。母語と異なる音韻体系を習得する能力は、10歳前後を境に衰えていくと言われています。本校では1年生から3年生まではオーラルコミュニケーションに重点を置き、英語独特の音を聞きとる耳を育てるとともに、日本人に難しいとされる発音も自然と身につけていきます。そして低学年のうちに日々音的に学んだことを土台として、4年生以降は会話だけではなく、文字とフォニックスを用いて「読み書き」の基本を学び、文章を読んで正しく理解したり、自分の「言いたいこと」を作文する力も育てます。

聖書の学び

「語学教育においては言語の文化的背景についての学習が重要である」と言いつつ、英語圏の人々が共有するキリスト教的概念を抜きにした教授法がいかにも多いことでしょう。本校では三育教育の根幹である聖書の言葉や祈り、讃美歌も英語で学びます。それは児童の心を育てる上で不可欠であるばかりでなく、通常小学校レベルでは扱われない単語や構文、概念が含まれており、英語習得の実際面にも役立っています。

多書き

定型文を多書きすることで「書くこと」のハードルを下げ、英検の「ライティング」にも対応できるように導きます。これは「中学に行ったら発音もほめられるし、リスニングやリーディングもできるけど書くことができない」という卒業生の声を反映させた取り組みです。

Graded Reading Program

図書室には個人の習熟度に合わせて自由に読み進めることができるGraded Reading Programのコーナーが用意されており、希望者は休み時間に教師の前で音読し、合格すれば次のレベルに進めるようになっています。

保護者向け勉強会

保護者の皆様にも学んでいただけるように「バイブルスタディ」「絵本読み聞かせ」「バイブルソング」の英語勉強会を開いています。勉強会で学んだ絵本を児童に向けて読み聞かせをしていただくボランティア活動も行っています。



Record of My English Learning 個人別・英語学習の記録

5年生	
17. 読書量(単語数)を毎日記録する(個人別)	1 2 3 4 5
18. フォニックスの勉強(単語)を毎日記録する(個人別)	1 2 3 4 5
19. 読み書きの勉強(単語)を毎日記録する(個人別)	1 2 3 4 5
20. 英語で発表し、フィードバックを受ける(個人別)	1 2 3 4 5
21. 英語で発表し、フィードバックを受ける(個人別)	1 2 3 4 5

在校生のご家庭での出来事です。

母親 「今日、英語の授業で何を習ってきたの?」

子供 「。。。」

母親 「あら、うちの子、大丈夫かしら。学校では何を教わっているのかしら?」

以前、このようにご心配なされたお母様からご質問をいただいたことがありました。そこで、2022年度より「Record of My English Learning」という個人別英語学習の記録を作成しています。

これは、各学年の終わりに1年間に学んだ内容項目とその習熟度を5段階表記したものを各個人にお知らせするというものです。これにより、各学年の学習内容と個人別習熟度をご家庭にもお伝えできるようになりました。

また、習熟度を数値化することによって、児童は自分のよくできている点について自信をつけたり努力すべき点を把握したりできるようになりました。

本校ではこれを「評価」というよりは「学習の記録」として位置付けています。

6年間の英語学習の流れ

- 全学年共通**
- 英語で聖書、讃美歌、お祈りを学ぶ
 - 言葉とその概念を同時にインプットできるようにアクションを多用する
 - 絵本をテキストとして取り入れる
 - 日直が授業開始前のルーティンを行う
 - 季節の行事に因んだ文化や歴史を学ぶ
 - 定期的に英語発表会を行う(授業参観・学習発表会等)

1-3年生 音声的インプットを多用し、「聞く」「話す」を中心に学習

1年生の学習目標

(1回20分×週8回)

- 歌やアクティビティを通して体全体で英語に親しむ
- 挨拶、天候、曜日、名前や年齢、色や動物、身近な事物の名前や動作を学ぶ
- 動詞句と基本文型を学び、文章を組み立てていく
- モデルをリピートすることで発音やリズム、イントネーションを学ぶ
- 小グループの補習で個人指導を行う(授業時間以外でさらなる定着を図る)



2年生の学習目標

(1回20分×週5回)

- 引き続きアクションを多用し、モデル正しくリピートすることを通して学ぶ
- 動詞句を中心とした基本構文を多く学び、短文でも会話ができるようになる
- 自分の気持ちを表現したり、自己紹介したりできるようになる
- 絵本暗唱を通して、単語や文法を自然に学び、英語特有のリズムとイントネーション、ナチュラルなスピードを学ぶ



3年生の学習目標

(1回20分×週5回)

- 動詞句を中心とした基本構文を増やし、フルセンテンスでの会話を増やす
- 否定文や疑問文を含めた会話も学ぶ
- 英語の音韻体系の基礎を定着させる
- 世界の国々について学ぶ
- アルファベットの大文字を習得し、書き取りができるようになる



4-6年生 文字・フォニックスを導入し、「読む」「書く」も加えて学習

4年生の学習目標

(1回20分×週5回)

- アルファベットの小文字を習得し、書き取りができるようになる
- フルネームを正しく書けるようになる
- 3年生まで音声的に学んだことを文字で確認し、さらに定着させる
- フォニックスの基本を学び、単語の読み方やスペリングを導入する



5年生の学習目標

(1回20分×週5回)

- フォニックスを適用してスペリングや文章の読み方を学ぶ
- チャンツを通して単語やリズム、イントネーションやナチュラルなスピードを学ぶ
- 反意語のペアで形容詞を学ぶ
- プレゼンテーションを通して英語で発表する態度を養い、自己及び他者を評価する姿勢を育てる

6年生の学習目標

(1回20分×週5回)

- ストーリーを読み、文法事項(時制や受身形など)を学ぶ
- 辞書の使い方を学ぶ
- ハンドライティングのルールや筆記体を学ぶ
- 4技能を用いて総合的に学ぶ
- 英検5級合格レベル以上を目指す
- 不規則動詞変化の活用を学ぶ
- 「多書き」を通じてライティングの基礎を学ぶ



San-Iku Global Network

国内はもちろん 全世界につながる 三育ネットワーク



アメリカに本部を持つセブンスデー・アドベンチスト教会(プロテスタント)を経営母体とする三育学院は、国内外に数多くの系列校を保有しています。全寮制の中学高等学校など独自の教育を展開しているほか、100以上ある海外系列大学への留学の道も開かれています。メディカルスクール(医学部)やビジネススクールなども充実しており、文字通り国境を越えてあらゆる学びが可能です。全世界に8,500校以上、在籍者数190万人余、10万人を超えるスタッフを有する教育組織となっています。

系列大学の例(一部)

- Andrews University (アメリカ: ミシガン州)
- Southern Adventist University (アメリカ: テネシー州)
- Loma Linda University (アメリカ: カリフォルニア州)
- Adventist University of the Philippines (フィリピン)
- Sahmyook University (韓国)
- Newbold College of Higher Education (イギリス: パークシャー州)
- Avondale University (オーストラリア: ニューサウスウェールズ州)
- Helderberg College of Higher Education (南アフリカ)
- Adventist University of Africa (ケニア)

国際交流

毎年本校へ、海外の系列校やアドベンチストグループの訪問があります。これまでオーストラリアの中学生、アメリカの大学生、香港から中学生のマーチングバンドやフィリピンのアドベンチストグループ、またJAXAに勤務する研究者や、日本で開催された国際試合に合わせて来日されたアフリカの方の訪問などがあり、2026年度はニュージーランドからゲストをお迎えします。世界の様々な地域からの訪問は、まさに世界に広がるネットワークによる強みであり、礼拝や賛美による音楽交流、文化交流といった共有体験を通して、グローバルな視点を育み、文化理解を深めています。また子どもたちが主体的に自らの文化を表現し、関わりを持つことで将来のグローバルな市民として成長することを目的としています。

交流の事前準備や訪問中の会話、読み書きの活動、振り返りを通して、英語や多言語に実践的で有意義なコミュニケーションに取り組めるため、子どもたちの自信を育み、リアルな言語体験が多言語コミュニケーションにおけるリーダーシップを養うことができます。

また、国際理解の一環として、毎年「International Book Week」を開催し、保護者の方々のご協力これまでドイツ語、オランダ語、ロシア語、フィンランド語、スペイン語、韓国語、中国語、タイ語等の絵本を原語で読み聞かせしてもらい、世界の異なる言語や文化に触れる機会を持っています。

加えて毎年のようにドイツやスイス、アメリカ、オーストラリアといった海外の系列校やセブンスデー・アドベンチスト教会の小学生が長期・短期と体験入学し、学び合う機会を持っています。



- 1 アメリカ・ウィマー大学の学生さんたちと楽しく遊ぶ
- 2 アメリカ・ウィマー大学の学生オーケストラのメンバーと挨拶
- 3 香港のタイポ・アカデミーのマーチングバンドメンバーと交流
- 4 フィリピンの竹を使った伝統ダンスを体験
- 5 フィリピンのRadiant Voicesの皆さんと記念撮影
- 6 International Book Weekでのスペイン語による絵本の読み聞かせ



本校のエディブル・スクールヤードは、神様が創られた自然の摂理を通して命の尊さを知り、汗を流し手足を使い手間と時間をかける学びです。

土に触れて一生モノの知恵を身につける本物の学び

エディブル・スクールヤードは、学校農園を活用した革新的な教育です。

1995年、アメリカの料理家アリス・ウォーターが「荒廃した中学校の校庭を、豊かな学びに変えよう」と始めた活動は、今や世界中に広がる大きな教育運動となりました。単なる野菜作り

ではなく、土を耕し、種をまき、育て、収穫物を調理し、食卓を囲むというサイクルを通じて、子どもたちは命の尊さ、共生、科学的視点を身体で理解します。



東京三育小学校のエディブル・スクールヤード教育目標

東京三育小学校のエディブル・スクールヤードは、土を耕し、植物を育て、皆で調理し食べるという一連の体験の中で「一生モノの知恵（非認知能力）」を育む本物の学び場です。畑で自然に触れ、五感で神様の恵みを感じる【感謝】、異学年で支え合う【協働】、正解のない問いに挑む【成長】、そして収穫を隣人と分かち合う【貢献】。この体験を通じ、机上の知識を超えた豊かな情操と、社会を生き抜くしなやかな強さを養います。

【感謝】、異学年で支え合う【協働】、正解のない問いに挑む【成長】、そして収穫を隣人と分かち合う【貢献】。この体験を通じ、机上の知識を超えた豊かな情操と、社会を生き抜くしなやかな強さを養います。

感謝
「神様の恵み」を五感で受け止め、豊かな感性を育む



単なる野菜作りではありません。一粒の種が芽吹き、収穫を迎えるまでの「命の奇跡」を、土の匂いや手触りを通じて体験します。

自然への敬意：
太陽や雨、土の動きといった目に見えない「恵み」に気づき、謙虚に感謝する心を養います。

食のルーツを知る：
食材がどこから来るのかを考え、命をいただくことの尊さを深く理解します。

協働
「ファミリー」の一員として、他者を思いやる心を育む



異学年で構成される「ファミリー」単位の活動は、小さな社会の縮図です。

責任と喜びの共有：
種まきから水やり、販売までを仲間と分かち合うことで、自分の役割を果たす責任感と、達成感を共に味わいます。

対話の土壌：
協力し合うプロセスの中で、自分と異なる意見を尊重し、互いを大切にすることを実践的に学びます。

[Edible Schoolyard]

成長
正解のない問いに向き合い、「生きる力」を磨く



自然を相手にする活動に、マニュアルはありません。試行錯誤の連続が、「非認知能力」を劇的に伸ばします。

主体的な実践：
「元気に育つ方法は?」「喜んで買ってもらえる方法は?」を自ら考え、計画し、粘り強く実行する力を養います。

しなやかな心：
天候や環境の変化など、思い通りにいかない状況乗り越えるための自己調整力と対話力を育みます。

貢献
恵みを分かち合い、社会とつながる喜びを知る



自分たちで育てた野菜を販売し、その収益を困窮している方々のために役立てる「秋の活動」は、本校ならではの教育です。

社会への第一歩：
自分の小さな行動が誰かの助けになる体験を通じ、「自分は社会に貢献できる」という自己肯定感を育みます。

愛の実践：
神様からいただいた恵みを分け合う喜びを知ることで、他者と共に幸せに生きる「奉仕と共生の精神」を体得します。

東京三育小学校のエディブル・スクールヤード「学びのサイクル」

命を育み、心を耕す「学びのサイクル」

東京三育小学校のエディブル・スクールヤードでは、単なる作業に留まらない、5つのステップによる深い学びを

大切にしています。土に触れる一瞬一瞬が、知性と感性を呼び覚まします。





一日の流れ

- 8:10 | 登校・朝の会
- 8:20 | 礼拝・体操・縄跳び・マラソン・児童会など
- 9:00 | 1時間目(40分)
- 9:45 | 2時間目
- 10:25 | 中休み(15分)
- 10:45 | 3時間目
- 11:30 | 4時間目
- 12:10 | 昼食・昼休み
- 13:00 | ファミリー掃除
(全学年縦割りグループに分かれて一斉掃除)
- 13:20 | 5時間目
- 14:05 | 6時間目
- 14:50 | 7時間目

下校時間

- 5時限 14:30 (1年生)
- 6時限 15:10 (2~3年生)
- 7時限 15:45 (4~6年生)

最終下校 16:20

※金曜日は全学年14:30下校
 ※月曜日・木曜日は各学年の下校時間後、連絡帳で申請したうえで、放課後遊び40分可能



ピアノレッスン

希望者は放課後に校内で、週1回、ピアノの個人レッスンを受講できます。初めてピアノに触れる子どもから、個々のレベルに合わせて丁寧な指導が受けられるため、楽しくピアノが上達します。年1回、レッスン受講者によるピアノ発表会も行われます。発表会は他者との比較ではなく、1年間努力した自らの成長を喜び、感謝する機会ととらえています。



TOKYO SAN-IKU FC (サッカークラブ)

3~6年生の希望者で、週2回、日曜日は9~12時、水曜日は放課後の16~17時で実施しています。グラウンドだけでなく、グリーンガーデンや体育館を使用し、目一杯練習できるよう工夫しています。日曜日には地域のクラブチームや系列校との交流試合、大会にも参加し、優勝するなど成果をあげています。

制服紹介





入学式



国際交流



運動会



沖縄修学旅行



防災訓練



サッカーフェスティバル



移動教室



祈祷週



水泳大会



社会科見学



クリスマス礼拝



スケート教室



学習発表会



ファミリー対抗駅伝大会



卒業式

<p>4月</p> <p>新年度始業式 / 入学式 個人面談 / 新入生歓迎会 春の遠足 授業参観 国際交流</p>	<p>5月</p> <p>三育学院 中等教育学校 見学会 運動会</p>	<p>6月</p> <p>祈祷週 引き渡し訓練 防犯訓練 沖縄 修学旅行 (6年生) 着衣水泳</p>	<p>7月</p> <p>個人面談 大掃除 誕生会 終業式</p>	<p>8月</p> <p>夏休み</p>	<p>9月</p> <p>始業式 防災訓練 授業参観 サッカー フェスティバル</p>	<p>10月</p> <p>移動教室 (4年生・5年生) 東京三育祭 (保護者会主催) 秋の遠足 祈祷週 / 水泳大会 各学年社会科見学</p>	<p>11月</p> <p>縄跳び大会 スポーツテスト 入学選考試験</p>	<p>12月</p> <p>クリスマス礼拝 入学選考試験 個人面談 大掃除 / 誕生会 終業式</p>	<p>1月</p> <p>始業式 スケート教室 (1~3年生)</p>	<p>2月</p> <p>学習発表会 新入生体験入学・ 入学説明会 ファミリー対抗 駅伝大会 芸術鑑賞会</p>	<p>3月</p> <p>卒業祈祷週 卒業生を送る会 大掃除 / 誕生会 卒業式 / 修了式</p>
---	---	--	--	-----------------------------	--	---	---	--	--	---	---

系列の三育中学校をはじめ、 一人ひとりにふさわしい 多様な進学を実現しています

本校ではキリスト教を土台とした全人教育を行うことを最大の使命としており、いわゆる難関中学校への受験対策を主な目的とした、学力重視の教育を行っているわけではありません。三育教育への理解を深め、共感していただき、中学・高等学校でも継続して三育教育を受けていただければと願っています。

しかしながら、本校で学ぶ6年間を通して知的好奇心や学習意欲を高め、難関とされる中学校に進学する児童もおり、その進学先は多様です。

私たちが一番大切にしているのは、一人ひとりが熟考し、納得したうえで、自分にふさわしい学び舎に進むということです。それぞれがキリスト教の愛を土台として築かれた自尊の感情と、三育教育で得た希望を胸に、他者と協働し、目標に向かって努力を続けることです。さらに神様が一人ひとりに与えられている輝く個性を創り上げ、他者のために生かしてほしいと願っています。

多くの卒業生が母校や教会を訪れ、近況を教えてください。彼らの成長は、教職員一同にとって何ものにも代えがたい大きな喜びです。

主な中学校進学状況(過去6年間)

系列校

三育学院中等教育学校
広島三育学院中学校
沖縄三育中学校

国公立中等教育学校

東京都立小石川中等教育学校
東京大学教育学部附属中等教育学校

私立中学校

青山学院中部、浦和明の星女子中学校、桜蔭中学校、大妻中学校、開智所沢中等教育学校、吉祥女子中学校、国立音楽大学附属中学校、恵泉女学園中学校、光塩女子学院中学校、攻玉社中学校、晃華学園中学校、國學院大學久我山中学校、駒場東邦中学校、埼玉栄中学校、淑徳中学校、順天中学校、順天堂大学系属理数インター中学校、成蹊中学校、成城中学校、東京女子館中学校、桐朋中学校、豊島岡女子学園中学校、普連土学園中学校、法政大学中学校、明治学院中学校、武蔵野大学中学校、立教新座中学校、早稲田実業学校中部

一人ひとりの長所をさらに伸ばし、深め、 豊かな人生の歩み方を学ぶ 三育の一貫教育

三育系列の中等教育学校、中学・高等学校は、日本では数少ない、キリスト教を柱とした全人教育を行う男女共学の全寮制中高一貫校です。

三育学院中等教育学校(千葉県)、中学校2校として広島三育学院中学校(広島県)・沖縄三育中学校(沖縄県)、高校は広島三育学院高等学校(広島県)の1校があり、いずれの学校も自然豊かな環境に、広々としたキャンパスを保有しています。広島三育学院高等学校では、個性の異なる中学校2校が混じり合い、学びと生活の場において1校では醸し出せない深みが生まれます。

中高時代の寮生活は生徒たちの規律、礼儀、自立心、コミュニケーション能力、自ら思考し行動する力を養成するのに非常に有意義です。全教職員がキリスト教に基づく同じ価値観を共有し、寮内やキャンパス内に居を構え、寝食を共にし、昼夜を問わず指導に当たります。

朝夕の礼拝から、あらゆる場面でキリスト教を土台とした生活を送る中、協調性や相手を思いやる心を実践的に身につけることができます。また、三育教育の伝統である*労作教育、奉仕活動を通して他者のために生き、他者の笑顔を引き出す喜びの体験を増やします。

三育学院中等教育学校は、一貫した教育方針を6年間継続し打ち込むことができ、先取りの教育カリキュラムによって余裕をもって学習し、卒業後の進路に備えることができます。また全世界に同じ教育理念で運営されている多くの系列校があるため、一年を通じて、これら系列校からの訪問や海外からの特別ゲストによる英語での礼拝や授業などの機会に恵まれています。修学旅行は修養会と呼ばれ、アメリカやフィリピンの系列校に2週間滞在し研修を行うプログラムを持っています。

広島三育学院高等学校は、高校1年までは全教科必修を基本とし、高校2年からは多くの選択科目を設け、自分の進路に応じた時間割が編成できるように配慮されています。卒業後は毎年、海外の系列大学へ直接留学する生徒が一定数います。

系列校からの主な進学先(過去4年間)

国内の大学

三育学院大学	駒澤大学	同志社女子大学
三育学院カレッジ	国際教養大学	東北大学
青山学院大学	国際基督教大学	日本女子大学
桜美林大学	昭和医科大学	日本大学
大阪芸術大学	昭和音楽大学	広島大学
岡山理科大学	聖マリアンナ医科大学	フェリス学院大学
沖縄県立芸術大学	拓殖大学	武庫川女子大学
神奈川歯科大学	玉川大学	星薬科大学
関西学院大学	多摩美術大学	立命館大学
関東学院大学	東海大学	琉球大学
京都産業大学	東京藝術大学	
慶應義塾大学	東京女子大学	
工学院大学	東京都市大学	

海外の大学

Andrews University (アメリカ)
Biola University (アメリカ)
Harding University (アメリカ)
Southern Adventist University (アメリカ)



三育学院
中等教育学校
広島三育学院中学校・
沖縄三育中学校



広島三育学院
高等学校



中学とは違い、大人への直前段階ともいえる高校では、生徒それぞれの自覚と責任感を尊重し、自由と規律を重んじます。生徒たちは24時間、仲間と生活を共にする寮というコミュニティの中で、親密な関係性の経験をを通して社会性を身につけます。また自分の個性や特徴を深く見つめながら、社会人としての将来を描き、夢に向かって努力を続けています。

教師と生徒が共に暮らす寮生活では、生活の基盤から学びます。親元から離れ、自分のことは自分でやることで、自立心と親への感謝の気持ちが生まれ、寮の先輩や仲間と共に暮らすことで人間力が育われます。寮の仲間とは一生の付き合いになるほどです。共同生活で生徒同士がお互い切磋琢磨し合う中、学習面はもちろん、協調性やお互いを思いやる姿勢など、人格的にも大きく成長できる環境です。

*労作教育：労働や作業など身体的活動を通して人間形成を図る勤労学習です。心身を働かせて活動することで、勤労、奉仕の精神や意志力、忍耐力を身につけます。

自分らしい 豊かな人生の 歩み方は 三育で学んだ

卒業生が語る三育教育の魅力



いのまたつ や
猪俣達也さん

中学校・高校：武蔵高等学校中学校
大学：北海道大学・大学院
勤務先：三菱総合研究所



少人数の教育環境で 育まれた人間性

少人数ならではの温かな教育環境の中で、学年を超えて先生方に見守られながら、安心して伸び伸びと過ごすことができました。先生方は一人ひとりを丁寧に見てくださり、担任の先生以外にも私のことをよく気にかけてくださいました。そうした環境にあったからこそ、大切にされているという安心感が自己肯定感につながり、日々の様々なことに積極的に挑戦できたのだと思います。発話の機会が多く与えられたのも、1学年1クラスという少人数の環境だからこそでした。互いの意見を分かち合い、尊重し合うことを通して、仲間との濃密な人間関係を築くこともできました。

学校行事の中で特に好きだったのは運動会でした。三育では、競わせるといよりも、学年を問わず協力し合い、チームワークでつくり上げていく雰囲気がありました。その一体感の心地よさは、今でも印象に残っています。運動会では親子競技や親だけの競技も多く用意され、三育ファミリーを

実感する機会でもありました。

そうした環境の中で出会った聖書も、私にとって一種のルーツとなっており、大学でも教養の授業で改めて学び直しました。人に優しくすることや、競争より協働を大切にする姿勢は、今でも私の核となっています。

卒業後も生かされた英語教育

英語には、6年間毎日触れることができました。中学高校に進学してからもつまずくことなく、英語が得意科目になったのは、この日々の授業のおかげでした。特にリスニング力は小学校時代に培われたと感じています。何より、20分という短い時間の中で、英語が楽しいと思える授業が展開されていたことが印象に残っています。

英語の授業でも聖書の言葉に触れる機会がありました。当時は小学生には難しい単語も多く、すぐに十分理解できたわけではなかったと思います。それでも、繰り返し声に出し、耳で聞き、少しずつ親しんでいくうちに、言葉そのものが心に残っていきました。その学びが活きたのは、むしろ大人になってからでした。海外旅行で史跡を巡っ

た際など、現地の説明や雰囲気に触れる中で、ふと当時の聖句や言葉を思い出すことがあります。今振り返ると、とても貴重な経験をさせてもらっていますね。

受験を検討している家庭へ 東京三育小学校のアピールを お願いします

一番の魅力は少人数教育です。子ども一人ひとりの個性が大切にされ、一律ではなく、その子らしく伸び伸びと過ごせる環境があります。そうした環境の中で、共通した教育理念をもつ先生方が、それぞれの成長に寄り添いながら支えてくださいました。6年間クラス替えがないことや、少人数だからこそ全校児童全員と関わることができる点も、東京三育小学校ならではの魅力なのではないでしょうか。こうした環境の中で学べたことを、本当によかったと心から感じています。今でもたまに遊びに行くことがありますが、変わらず「お帰りなさい」と迎えてくれる東京三育小学校は、私にとって大切なホームグラウンドです。

「三育を選んでよかった!」 の声を届けます

現役保護者が語る入学の決め手や入学後の子どもの成長



東京三育小学校へ入学を 決めた理由を教えてください

娘が1歳の時からイギリス、その後ドイツと計7年間ヨーロッパで生活し、帰国しました。コロナ禍を含む駐在期間であったため一時帰国の機会も少なく、日本語より英語で生活する時間の方が長い環境でした。姉妹同士の会話は英語、親との会話も返答は英語で、家庭内での日本語は理解できても、スムーズには出てこない状態でした。帰国は想定していたよりも早く、突然決まったため、娘にとっては混乱と寂しさの中での帰国だったと思います。

様々なご縁があり、まず学校見学に

行きました。英語の授業や、のちにクラスメートとなる学年の教室も見学させていただき、「楽しそうな学校!」と娘は嬉しそうでした。子どもたちが廊下や校庭で自然に挨拶してくれる姿、学年を超えて元気に遊ぶ様子、先生方の穏やかな笑顔がとても印象的でした。さらにその後、東京三育祭にも参加し、在校生のご家庭の雰囲気に触れられたことも安心につながりました。

私たち家族は、言葉や帰国という子どもにとって大きな環境の変化の中で、より自分らしく安心して過ごせる居場所を探してあげられればという思いがありました。様々な幸運が重なり、入学することができました。東京三育小

学校は、子ども一人ひとりそのまま受け入れてくださる雰囲気があり、海外生活が長い帰国子女にとっても自然に安心して馴染める環境だと感じました。

キリスト教教育について良かったと思うことを教えてください。

駐在生活を通して、キリスト教は私たちにとって比較的身近なものでした。娘は小さい頃から読み物としてBible Storiesに親しんでいましたが、学校での学びは知識を身につけるだけでなく、日々の礼拝やお祈りを通して、感謝する心、優しい心、赦す心、他者を思いやる姿勢が温かな環境の中で自然に育まれていると感じます。

少人数教育について良かったと思うことを教えてください。

先生と子どもたちの距離が近く、担任の先生だけでなく、全ての先生やスタッフの方々が一人ひとりの状況や性格を把握してくださっていると感じます。自分のことを知ってくれているという子どもの認識は学校生活を送る上で大きな安心感に繋がっているのではないのでしょうか。東京三育小学校では、運動、勉強、工作、音楽など、得意不得意に関わらず、一人ひとりが輝ける機会をたくさん用意していただきます。これも少人数ならではの感じます。すでに良くできていることや、一部の児童ばかりを褒めるのではなく、頑張ったこと、チャレンジしていること、少しでもできるようになったことを認め、一緒に喜んでくださいます。これは先生方だけでなく、子どもたち同士にも言えることで、お友達を励まし、小さくてもその頑張りを一緒に喜んでくれることは、失敗を恐れずチャレンジする気持ちにも繋がります。これはそれぞれが確固たる自信と安心の中にあるからこそ生まれる環境なのではないかと思えます。日々の授業や宿題も細かく見てくださり、娘の日本語力は早期に格段に上達しました。

また、縦割りグループの活動が多く

ありファミリー掃除やファミリー対抗駅伝大会などは、学年を超えて友人を作る機会となっています。

東京三育小学校の英語教育について、良かったと思うことを教えてください。

娘にとって良かったのは、英語で自分を表現できる場を学校生活の中で得たということです。東京三育小学校には4人も英語の先生がいらっしゃいます。また、英語が特別なものではなく、一つのコミュニケーション手段として尊重されている点が素晴らしいと感じています。帰国子女にとっては、英語力を維持できるだけでなく、「自分の一部を失わずにいられる」ことが大きな安心につながると感じました。

東京三育小学校にお子さまを入学させて、お子さまはどのように成長したと感じられますか。

安心できる環境の中で、新しいことに挑戦することを怖がなくなりました。以前は間違いを気にして発言をためらうことがありましたが、今は積極的に意見を伝えたり、活動に参加したりするようになったようです。また、日本語での表現力も徐々に伸び、英語と日本語の両方を自然に使い分けながら生活できるようになりました。海外

での経験を土台に、日本の学校生活へ無理なく適応していく姿に成長を感じています。

保護者として東京三育小学校の良いところを教えてください。

先生方と保護者の距離が近く、子どもの様子を一緒に見守っているという安心感があります。同じ方向を向いて子育てをしている感覚があります。学校を訪れるといつも歓迎していただきます。また、体育の時間だけでなく、体を動かす機会や遊びの機会がたくさんあります。マラソン大会、縄跳び大会、エディブル・スクールヤードでの活動や、放課後遊びといった運動の中で小さな達成感を積み上げ、自らの成長を喜び、またお友達と分かち合うことが楽しいようです。放課後活動のサッカークラブにも入り、日々の練習や学外での試合もとても楽しんでます。

入学を希望している方へ、現役保護者としてメッセージをお願いします。

環境の変化に不安を感じるお子さまほど、安心できる居場所が必要だと思います。東京三育小学校は、子どもが「そのまま受け入れられる」場所だと思います。

笑顔あふれる
子どもたちの成長の様を
一緒に体験しませんか



2027年度入学のための入試日程 (2026年実施)

	AO入試	第一期	第二期
願書配布開始日		9月1日(火)	
募集人数		男女25人	
願書受付開始	10月2日(金)	10月2日(金)	11月16日(月)
願書受付締切	10月30日(金)	11月12日(木)	12月10日(木)
試験日	11月3日(火)	11月15日(日)	12月13日(日)
合格発表(郵送)	11月4日(水)	11月16日(月)	12月14日(月)
入学手続	11月6日(金)	11月19日(木)	12月17日(木)

※AO入試は本校を第一志望とされる方を対象としています。
 ※選抜方法：知能検査・運動機能検査・集団行動観察・面接（保護者・本人 約20分）
 ※面接のためのアンケート調査があります。

入学個別相談・学校見学 ※要予約

学期中の午前中に実施しています。あらかじめお電話、もしくは学校ホームページの「資料請求・お問い合わせ」からお申込みください。

学校説明会・入試説明会 ※要予約

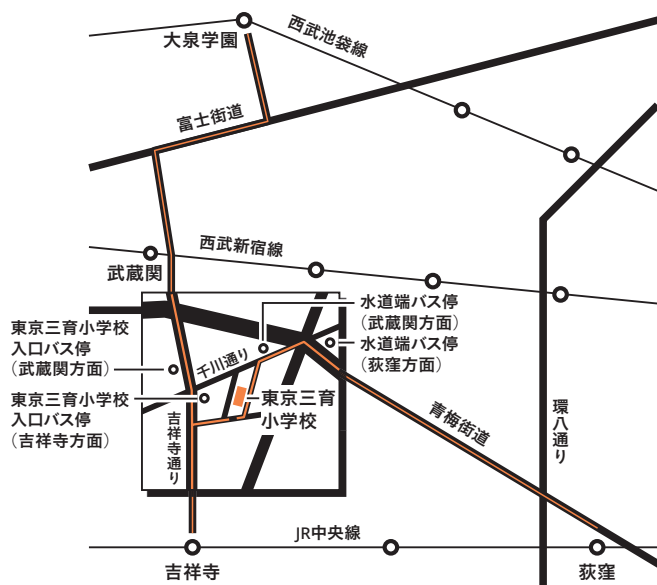
学校説明会：5月17日(日) 入試説明会：8月30日(日)
 ※実施日の1か月前から学校ホームページで受け付けを開始します。

Access

吉祥寺・荻窪・武蔵関・大泉学園の4駅からのバスが便利です。
 JR・京王井の頭線 吉祥寺駅よりバス(約10分)「東京三育小学校入口」下車 徒歩5分
 JR・地下鉄丸ノ内線 荻窪駅よりバス(約13分)「水道端」下車 徒歩5分
 西武新宿線 武蔵関駅よりバス(約13分)「東京三育小学校入口」下車 徒歩5分
 西武池袋線 大泉学園駅よりバス(約20分)「東京三育小学校入口」下車徒歩5分

主要駅からの所要時間 ※乗り換え時間は含まない

吉祥寺駅までの所要時間	大宮駅 …………… 43分	自由が丘駅 …………… 31分
立川駅 …………… 15分	品川駅 …………… 34分	武蔵関駅までの所要時間
八王子駅 …………… 25分	下北沢駅 …………… 12分	所沢駅 …………… 22分
新宿駅 …………… 14分	成城学園前駅 …………… 21分	高田馬場駅 …………… 13分
赤羽駅 …………… 29分	渋谷駅 …………… 16分	



公開行事 ※要予約

運動会	5月24日(日) ※雨天の場合は5月31日(日)
東京三育祭 (保護者会主催)	10月11日(日)
クリスマス礼拝	12月6日(日)

※公開行事はすべてお電話でご予約ください。

プリ・プライマリークラス

広く一般の方に、三育教育を体験していただくことを目的とし、聖書の話や英語の歌や読み聞かせを通して、自然と英語に親しむプログラムです。保護者様向けに、本校が行う教育の理念を知り、理解を深めていただくための『保護者クラス』を並行して行います。詳細は学校ホームページをご覧くださいか、お問い合わせください。



国内三育ネットワーク

国内の三育系列校

- 【幼稚園】4園 札幌・横浜・広島・鹿児島
- 【小学校】9校 函館・日立・市原・東京・横浜・広島・三原・鹿児島・沖縄
- 【中学校】広島三育学院中学校(広島県三原市) 沖縄三育中学校(沖縄県名護市)
- 【中等教育学校】三育学院中等教育学校(千葉県夷隅郡)
- 【高校】広島三育学院高等学校(広島県三原市)
- 【大学】三育学院大学看護学部(千葉県夷隅郡・東京都杉並区)
- 【大学院】三育学院大学大学院看護学研究所(修士課程、東京都杉並区)
- 【専門学校】三育学院カレッジ神学科(千葉県夷隅郡)

病院

東京衛生アドベンチスト病院(東京都杉並区)
 神戸アドベンチスト病院(兵庫県神戸市)
 アドベンチストメディカルセンター(沖縄県中頭郡)

福祉施設

シャローム東久留米(東京都東久留米市)
 ほか高齢者福祉施設・障害者福祉施設25か所

国際援助活動

特定非営利活動法人ADRA Japan(東京都渋谷区)

健康食品事業

三育フーズ株式会社(千葉県袖ヶ浦市)

出版事業

福音社(神奈川県横浜市)



学校法人 三育学院

東京三育小学校



学校法人三育学院は、一般社団法人キリスト教学校教育同盟に加盟しています。